

「締結のトータルサポート」は、 他社が真似することができない、 日東精工だからこそ、絶対的な強みです

日東精工は「締結のトータルサポート」をキャッチフレーズにしています。

これはファスナー事業、産機事業、制御システムの3事業連携で〈締結に関連するどんな要望にも総合力できめ細やかに対応し他社の追随をゆるさない〉ということです。

今号ではこの当社の「締結のトータルサポート」の意味するところ、そしてそれが他社には真似できない理由をあらためてご紹介していきます。

世界でも稀な3事業連携

～ねじとロボットと流量計の事業部が
スクラムを組むシナジー(相乗効果)とは?～

日東精工の大きな強みは、ファスナー、産機、制御システムと3つの大きな事業柱があって、それぞれが独立しながら、同時に互いに連携していることです。

他社ではねじ締め機メーカーが別のねじメーカーと連携し、それを強みとして紹介しているところもありますが、当社では何十年も前から、3つの事業の連携という形で、しかも社内でそれを実現できているのです。

たとえば、製品の軽薄化とともにねじも小さいものが求められるようになり、当社では軸径が1ミリクラスの精密ねじを大量に生産していますが、このねじは人間の指でつまむこともなかなか難しく、ましてや手でトルクを調整して締めるということはまず不可能なものです。この精密ねじは製品の組立に使用できてこそ、はじめて力を発揮できるわけで、ねじメーカーがいくら画期的ねじを開発したからといって、それを使いこなせる環境が整わないと単なる自己満足に終わってしまいます。

もちろんそのねじ自体が粗悪品であっては、組み込まれた製品自体の品質が悪くなり、評判はがた落ちになってしまいます。

日東精工では、肉眼では検査もできない微小なねじの品質を保証し、その使用環境まで整える、そこには何と、想像ではつながりようのない、ロボットを手がける産機事業部と、流量計を手がける制御システム事業部の技術力が生かされているのです。

0.6ミリのねじをも検査できる 高性能検査選別装置「ミストル」シリーズ —精密加工と精密検査技術が生きる 制御システム事業部—

当社でいちばん長い歴史のある制御システム事業部は、もともと量水器(水道メータや流量計)の製造から始まりました。液体の量を計測する機器ゆえに、必要とされることはその計測精度。つまり歯車や羽根車、計量室などの加工精度が求められました。その微細加工で培った技術を活かし、またその計測の対象を広げてきた結果、いまや流量の測定だけではなく、地盤の固さの測定や、カ



超小物部品専用検査選別装置「ミストルFタイプ」



検査対象部品例(極小ねじ)

メラを使った部品の形状検査など、その計測領域は多岐にわたっています。

もともと社内設備として、精密ねじの画像検査装置も昔から手がけてきましたが、今年6月には0.6ミリ径極小ねじなどの超小物部品の外観・寸法検査も可能とした、超小物部品専用検査選別装置「ミストル (MISTOL®) Fタイプ」を発売しています。

このような検査測定技術を用いて、精密ねじの品質を保証しているのです。

精密ねじ締め之苦労を克服した自動化装置

— ロボット、フィーダ、締め付け技術が生きる産機事業部 —

精密ねじを従来のねじ供給機で自動供給しようとしても、その小ささと軽さのためにすぐに詰まりが発生してうまくいきません。もちろんワークのねじ穴位置までロボットが搬送する途中にワークの中に落とすことなどがあってもいけませんし、締め付けにおいてもグラム単位でトルクをコントロ

ールするなど、精密ねじゆえの様々な問題が発生します。これらを克服できるのは、長年ねじ締め機、ねじ締めロボットのトップメーカーとして製品改良を重ねてきた、当社の強みがあるからです。



卓上ねじ締めロボット

ディスク式精密ねじフィーダ

ねじを知りつくしたロボットメーカー、検査・計測機器メーカーだからできること

3つの事業は一見別々のようですが、中で結びつき「トータルサポート」を具現化しています。これらはいわば「シナジー」でもありますが、当社は中期経営計画「NITTOSEIKO Mission “G”」の戦略の下、このシナジーを国内・海外の子会社の技術融合へ拡大し、より高度で広領域のサポートができることを目指しています。今後の挑戦にご期待ください。

IR説明会を 東京・大阪・福知山で開催

日東精工はガバナンスを強化、経営の透明化を進め、すべてのステークホルダーの方にしっかり情報を開示し、等身大の姿を発信しています。

6月12日に当社本社のある綾部市のお隣り福知山「サンプラザ万助」でIR会社説明会を開催。

また6月24日には大阪証券取引所ビルにある「北浜フォーラム」で、7月4日は東京・日本橋にある「日本投資環境研究所」でアナリストや機関投資家、メディアの方々向けのIRセミナーを実施しました。今後もこういった説明会を随時開催し、当社への理解を深めていただく機会を設けてまいります。



「アンコンシャス・バイアス・ ハラメント」研修を実施しました

セクハラやパワハラもそうですが、加害側に悪意がなくても、問題となるケースは多くあります。たとえば年配者はパソコンが苦手、女性だから細やかな気遣いができる、女性がか弱い、新人類はこらえ性が無いといったようにステレオタイプに表現されることがありますが、こういった思い込みや無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）は、上司部下の関係やチームワークで仕事を進めるうえで弊害になっています。



5月18日に(株)アイ・イー・シーの稲垣友美先生を講師に招いて「ダイバーシティ アンコンシャス・バイアス研修」を行いました。まだ耳慣れない言葉ですが、当社ではグローバルカンパニーとして、また業界をリード・けん引していく企業として、これからも積極的に働き方改革に取り組んでまいります。

日東協力会65周年を記念し インドネシア現地法人視察ツアー

綾部市内を中心に現在は全18社でなる「協同組合 日東協力会」が今年で65周年を迎え、記念の海外視察（インドネシアの現地法人NAI社のプカシ工場）が開催されました。当社では連結対象の子会社、関連会社だけでなく、協力会社様とも受発注という枠を超えて、常に同じベクトルを向いていきたい、大切なパートナーとして、ともにレベルアップしていきたいと願っています。（なお、次号では当社材木社長と日東協力会山下理事長との対談を予定しています）。



地盤調査機「ジオカルテ」 タイでのイベントに出展・実演

当社制御システム事業部の地盤調査機「ジオカルテ」は国内での圧倒的シェアを誇るとともに、グローバル展開を目指しています。

タイでの事業展開をサポートするタイ・カセサート大学のスティサク教授の協力要請を受け、当社ならびに現地法人TNM社は5月31日に行われた「液化化被害低減の提案イベント」でジオカルテの展示・実演を行いました。当時はあいにくの荒天となり午前中のみ開催となったにもかかわらず、隣国ミャンマー政府関係者を含む約200名が来場しました。とくにミャンマー工学協会の方々には高い関心を示していただけました。





礼儀とは相手の好奇心から生まれる

先

日、インドネシア出張中に酒席をともしたお客様から「材木さんは女性にもやさしい。気くばりがすごいですね」と感心されました。誤解のないように申し上げますと、私はどんな相手にも全力投球、120%直球で接したいと思っています(笑)。

それで、ある雑誌の特集で、落語家の桂文枝師匠(以前の三枝さん)が「礼儀とは、相手への好奇心から生まれる」と語っておられるのを読んで、まさに「我が意を得たり」とうれしくなりました。

文枝師匠は『新婚さんいらっしゃい!』の司会を続けています。同一司会者による最長トーク番組としてギネス登録されているのですが、「素人相手に、毎回、よくもまあ、次々おもしろい話を引き出せますね」と言われると「それは出演夫婦に心から関心と好奇心をもっているからだ」と答えるそうです。

「無愛想な旦那さんなら『な

んでわざわざテレビに出はったんやろう?』と不思議に思っただけで、そこからおもしろいエピソードがバツと出てくる。真面目そうな人のネクタイが歪んでいた、ズボンがシワだらけだったりすると、それだけでもおもしろい。出演する夫婦が準備をしていないであろう意外な質問をぶつけると、隠れた人間性がどんどん表れてくる」のです。落語家の鋭い観察眼と話芸があつてのことですが、ベースにあるのは「関心・好奇心」です。そして番組に出演する夫婦にとっては「一生に1度の晴れ舞台」だからこそ、「出てよかった」と思ってもらえるよう、収録はいつも全力投球だそう。

「新婚さんのおノロケを笑う他愛のない番組」だと少し誤解をしていたのですが、長く(なんと49年!)続くものには、やはり、それだけの理由があるわけですね。

じつは常に全方位に好奇心

をもち続けるのは案外、難しいです。自分の好きなこと、興味のあることばかりに目を向けがちです。「○○があるよ」「△△がおもしろい」と誘われ情報をもらっても、興味がない、時間がながい、ついていけない、必要ないなど、ないない尽くしで、自分の可能性を潰してしまふ。それは自分の成長に興味ない、ということにもなるのです。

けれど、いろいろな場所で見聞したことが、後になつて

自分自身の「引き出し」を充実させることにつながります。ですから私自身、なるべく現場に足を運んで多くの方に出会いたいと考えています。展示会などもそうですね、新しいお客様との出会いを通して、その方々に徹底的に興味をもって(好きになつて)、いい関係を築いていければと願っています。

繰り返しますが、大事なことは「礼儀とは相手への好奇心から生まれる」です!

連載⑩

あやべ ちょっと寄り道

鰻でなくお餅! 高倉神社「土用の丑まつり」

7月27日は「土用の丑(うし)」です。世間一般にはこの日は鰻を食して英気を養うイメージがありますが、綾部の高倉神社の土用の丑まつりでは腹痛に効くという「はらわた餅」が販売されます。平氏との戦いに破れて当地に落ち延びてきた高倉宮似仁王(ちかむらたにのみこと)でしたが、矢傷が悪化してお付きのものや里人の介護もむなしく崩御。矢傷の腹痛の激しさのなかで「私が他界したら、この腹痛の苦しみを後世の万民が味わうことのないよう守護しよう」と言い残しました。この逸話にちなんだもの。土用の丑の「鰻」は江戸時代、平賀源内が広めたといわれますが、それよりも古い中世から伝わる綾部の伝説です。



写真/綾部市観光協会